

製品名: OSR1 (リン酸化 Thr185) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05138**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	OXSR1
別名	OXSR1; KIAA1101; OSR1; Serine/threonine-protein kinase OSR1; Oxidative stress-responsive 1 protein
遺伝子 ID	9943.0
SwissProt ID	O95747
免疫原	抗血清は、ヒト OSR1 の Thr185 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

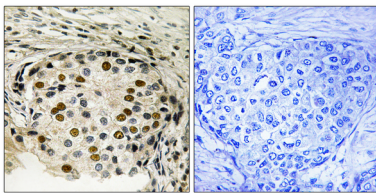
背景

この遺伝子産物は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーに属する。環境ストレスにตอบสนองして下流のキナーゼを制御し、アクチン細胞骨格の制御に関与している可能性がある。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素制御: スレオニンの自己リン酸化による。機能: 環境ストレスにตอบสนองして下流のキナーゼを制御する。アクチン細胞骨格の制御にも関与している可能性がある。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。STE20 サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: PAK1 に結合してリン酸化します。塩素イオンチャンネルタンパク質 SLC12A6 アイソフォーム 2、SLC12A1、SLC12A2 と相互作用するが、SLC12A4 および SLC12A7 とは相互作用しない。環境ストレスに対する細胞応答を開始させるセンサー/シグナル伝達モジュールを形成する可能性がある。RELL1、RELL2、および RELT に結合し、リン酸化を行う。組織特異性: 検査した全ての組織で普遍的に発現する。

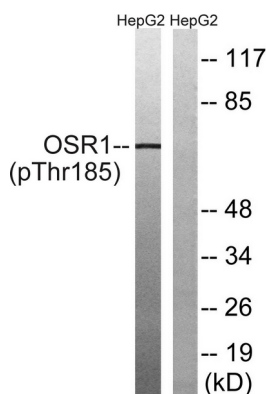
研究分野

シグナル伝達

画像データ



OSR1 (リン酸化 Thr185) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 20% 15' で処理した HepG2 細胞ライセートの OSR1 (リン酸化 Thr185) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。